

傾向と対策 2025

[入試科目別傾向と対策]

〔総合型選抜(AO選抜)適性試験型／資格・活動型／探究活動入試〕

■英語	4
■数学	6
■国語	8

※傾向と対策作成：河合塾グループ 株式会社 KEI アドバンス

英語

出題傾向

入試日程	大問	出題分野・テーマ	難易度
総合型選抜	第1問	空所補充問題(文法・語法、語彙)	やや易
	第2問	整序英作文問題(文法・語法、語彙)	やや易
	第3問	対話文完成問題	標準
	第4問	会話文読解問題	標準

●出題形式

椋山女学園大学の総合型選抜(AO 選抜)にはいくつかの入試方法があるが、英語などの適性試験が課されるのは、学科適性入試の適性試験型、一部の資格・活動型および探究活動入試である。受験科目は、国語、数学、英語の中から2教科2科目を選択する。2026年度入試は入試方法の名称や試験内容が変更になるため、大学ホームページなどで確認すること。

●出題範囲と出題内容

a. 出題範囲

コミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ(リスニングを課さない)

b. 出題内容(大問構成)

文法・語法空所補充問題1題、整序英作文問題1題、短めの対話文完成問題1題、長めの会話文読解問題1題の計4題(小問数は20問)

●問題の傾向

第1問は、単文中の空所に適切な語句を補充する形式である。高等学校で習得すべき語彙や表現、文法事項をもとに出題されており、教科書および準拠のテキスト、演習用問題集と同程度の難易度である。学校の授業で学習すべき事柄以上のもは出題されていないので、履修事項をきちんと身につけていれば正解できる。第2問は整序英作文問題で、単文中に設けられた5つの空所に、5つの選択肢で示された語句を入れて英文を完成させる形式である。日本語訳がなく、難しく感じるかもしれないが、第1問同様、学校の授業で学習した語彙や表現、熟語の知識をもとにして、身につけてきた文法の知識を活用すれば正解できる問題ばかりである。第3問は、2人の話者による1往復～1往復半の対話内に設けられた空所を補う形式である。学校の授業ではあまり見聞きすることのない表現が見られるものの、会話の基本である「問いと返答の繰り返しで筋ができる」ということを軸に対話の流れがうまく進むような表現を想像しながら選択肢を選べば正解を選ぶことができる。第4問は、長めの会話文読解問題形式である。前問の短い会話同様、問われる箇所が出てくるとに解答してもよいが、長めであることから文章全体の状況や大筋が大きなヒントとなることも踏まえ、全体をざっくりと読んでから解答するとさらに解きやすい。なお、文章中の空所への適切な表現の補充、下線部の表現が意図している意味内容の選択、文章の内容に関する問いへの回答として適切なものを選ぶ問題で構成されている。話題は、身近でありつつも、人によってはあまり知らない事柄である可能性もあるが、詳細が丁寧に説明されているので、しっかり読めばよく理解できるようになっている。よって、会話文であるとはいえ、2人の話者の考えや立ち位置をその都度整理しながら、話されている事柄に関して、できればメモを取りつつ読み進めたい。

●難易度

入試基礎～標準レベルまでで正解できる設問で構成されており、大学入学共通テストよりもやや易しいと言える。

英語

学習対策

今まで学習したことを何度も徹底しておくことが高得点の必須事項である。まずは、高等学校で学んだことを、教科書、テキスト、問題集、実施済みの定期テストを通して再度取り組み、わからないことやできないものがないようにしておくことが大切である。

●日々の学習習慣をもう一度見直し、「忘れ」や「漏れ」のない学習習慣を確立しよう

自らの学校活動をもとに出願するため、受験生は日ごろの生活やその習慣がきちんと確立できていると考える。しかしながら、やはり人間には得手不得手があるわけで、「苦手なものにもきちんと実直に取り組んでいるか」ということを自身に問う機会にするとよい。学校の学習活動は、基本的に地道な努力を積み重ねれば、きちんと身につくようになっていくので、それができているかを再確認し、改善すべきことがあれば即座に改善し、真の「お手本となる高校生活」を確立するように努めるとよい、ということだ。出題される問題は、学校の授業で知識をきちんと身につけていれば正解できる問題であり、「学校の生活で身につけるべきことをきちんと身につけられるような高校生活を送っていたか、それが大学での学生生活へと発展するか」を問われていると考えられる。苦手だからと言って、後回しにしていることを今一度集めてリカバリーすることはもちろん、それを日ごろから後回しにしないよう計画を立て、即座に実践していこう。授業の取りこぼしがなければ、テキスト付属の問題集などで演習しておけば、きちんと高得点を取ることができる。

●高等学校で学習したものは、教科書からプリントまでしっかりと何度も復習しておこう

広告文と長文を除いた一般入試と同じ形式ではあるが、出題の観点や語彙・表現のレベルは高等学校の授業とテキスト程度であり、学習した知識を活用すれば正解できるものばかりである。日ごろの学習習慣が確立できていて、学習した基本知識が身につけていることが大切である。前述の項目と併せて、教科書や準拠のテキストにあがっている知識や問題はもちろん、学校の先生方が作成されたプリントや定期試験もフル活用し、既習事項における漏れがないように、基礎・基本を徹底して学習することから対策を始めよう。

数 学

出題傾向

入試日程	大問	出題分野・テーマ	難易度
総合型選抜	第1問	数学 I 数と式/図形と計量	易
	第2問	数学 I・A 2次関数/場合の数/図形の性質	易

●出題形式

試験時間は2科目で60分なので、数学にかけられる時間は概ね30分で、大問2題すべてを解答する形式である。解答形式は、当てはまる数値または適切な選択肢の番号をマークするマークシート方式である。

●出題範囲と出題内容

a. 出題範囲

数学 I・数学 A (図形の性質・場合の数と確率)

b. 出題内容

2025年度の総合型選抜入試では「命題と集合(数学 I)」と「データの分析(数学 I)」からの出題はなく、その他の単元からは1～2問の出題があった。

●問題の傾向

2025年度の総合型選抜は大問2題で構成され、大問は2題とも小問数3つずつの小問集合であった。

●難易度

2025年度の総合型選抜は第1問、第2問ともに基本事項・基本解法を確認する問題で、いずれの問題も教科書の例題レベルの難易度であった。

数 学**学習対策****●教科書を中心に基礎固めを徹底しよう**

前述のとおり、2025年度の総合型選抜はすべての問題が教科書の例題レベルの難易度であった。したがって、教科書を中心に勉強することをおすすめする。まずは教科書を熟読して定理や公式を理解し、教科書の例題や練習問題に取り組もう。教科書の例題を一通り自力で解けるようになることが1つの目標である。

次に、教科書の例題が自力で解けるようになったら章末問題や教科書傍用問題集を用いて繰り返し演習を行おう。演習で解けなかった問題は解答を確認し、わからない部分があれば学校の先生などに質問してみよう。これを繰り返すことで、基礎力は完璧になる。

●計算力を身につけよう

日々の勉強で意識してほしいのが「計算力」である。基礎～標準問題の出題がメインの入試は、計算ミスが合否を分けると言っても過言ではない。計算力の獲得のために、1日に数題でよいので計算問題に取り組むようにしよう。毎日の学習の中で、計算ミスを「ミスをしただけ」と片付けるのではなく、「なぜミスをしたのか」を自分で考え、対策を講じていくことが肝要である。

●最後に

総合型選抜は基本事項・基本解法を確認する問題がメインの試験である。特別な対策をするというよりは、教科書を中心に勉強を積み重ねていけば合格に近づくはずである。毎日の学習を大切に、1つずつできることを増やしていってもらいたい。

国語

出題傾向

入試日程	問題	出典	難易度
総合型選抜	問1～問10	長谷川真理子「感情の進化」(『現代思想』2023年12月号)	標準

●出題形式

長文形式の総合問題であり、基本的に四肢択一(一部の問題を除く)のマークシート方式である。1題で構成されており、現代文の範囲から、評論文が出題された。

●出題範囲と出題内容

a. 出題範囲

現代文の中から評論文のみが出題されている。古文・漢文は出題されていない。

b. 出題内容

評論文形式の現代文が1題出題されている。2025年度は「感情」と「情動」の分類に関して、筆者の専門分野と実体験を踏まえた文章が出題された。生物学からの専門的な解説が中心だが、筆者の体験などの具体例も書かれており、文体も平易で、全体的な論旨も明確である。設問の難易度も標準的なものであった。

●問題の傾向

問題文の文字数は約4,000字程度である。設問は、漢字の書き取り、漢字の読み、語句の意味、語句の空所補充、傍線部の内容説明、内容一致など、いずれも入試の現代文では定番のものである。設問数は10問(マーク数24)。

●難易度

2025年度の総合型選抜は、「感情」と「情動」という2語について生物学的な考察を行う文章が出題された。私たちが普段から目にすることの多い語がテーマとなっているものの、問題文の内容はあくまで専門家による学術的な考察であるため、先入観を持たないようにして読解を進める必要があった。だが、筆者自身の体験が詳しく書かれており、抽象的な主張の理解を助けるヒントとなったことだろう。また、設問は本文の内容が忠実に反映された良問揃いのものばかりであった。総じて標準的な難易度の出題であったと言えよう。

国語

学習対策

●筆者のイイタイコトをつかまえよう

評論の筆者は自分の抽象的な意見（イイタイコト）を読者に伝えるために文章を書いている。しかし、それをそのままぶつけても大半の人には理解してもらえない。そこで、具体例をあげたり、自分のイイタイコトと対比されるものを提示し、それと比較させたりすることで、自分の意見をより明確に表現しようとする。入試の現代文は、その筆者のイイタイコト、論の展開を受験生がしっかり把握できたかどうかを確かめるために設問が作られている。よって、問題を解く際は、まず何がテーマ（話題）になっているのかを確認し、具体例と抽象的表現の区別、および筆者のイイタイコトと対比概念との区別を行いながら、筆者の論の展開を正確に把握するようにしよう。そのためには、普段から新書レベルの読書を心がけ、ただ漫然と読むのではなく、各章・各節で上記のことを意識するとよい。問題集に取り組む際も同様である。

●幅広く国語の知識を身につけよう

相山女学園大学では、漢字や語句の意味など、知識を問う設問も出題されている。漢字の問題集や国語知識の問題集に取り組み、評論文で頻繁に用いられる語句などは意識的に覚えておくべきである。また普段の生活や読書を通して、知らない言葉や事項に出会ったら、こまめに辞書や国語便覧で調べるなどして、語彙力や知識を身につけるよう心がけよう。漢字の問題集に取り組む際も同様である。

●マークシート方式の問題に慣れよう

大学入学共通テスト対策の問題集やマークシート方式の私立大学対策問題集に取り組もう。ただし、やみくもに問題文を読んで、漠然とした理解のまま選択肢を選んで서는ならない。繰り返しになるが、その文章のテーマが何なのか、どういう論理展開で、どんな結論（イイタイコト）を導いているのかを把握したうえで設問に取り組むこと。マークシート方式の問題は上記のことが押さえられていれば選択肢を1つに絞れるように作られている。迷ったときには、選択肢をじっくりと見て考えこむのではなく、設問が何を問っているかを押さえたうえで、常に本文に立ち戻り、本文と選択肢、選択肢相互の異同を照合して判断するようにすること。また、国語の問題が苦手である、あるいは制限時間内に問題を解き切れないという人は、過去問や問題集に取り組む際に時間を計り、時間配分の練習をしておくとうい。

●ややレベルの高い新書の読書を

相山女学園大学の入試では、日常生活では深く考察する機会の少ない抽象的なテーマの文章が出題される。そのうえ、内容説明問題や理由説明問題、問題文全体の内容一致問題に関しては、しっかり本文を理解していないと選択肢を選べないような設問がほとんどである。普段からややレベルの高い新書などを積極的に選んで読書をするとうい。